鹿児島県立鹿児島中央高等学校　～自主 好学 敬愛～
進路指導室だより 11月号
発行:進路指導部企画運営係<令和8年11月19日>

「精神的に向上心のないものは、馬鹿だ」　のお話

ご存じ「夏目漱石(こころ)」での、若かりし「先生」がKに言い放った一言ですよね。

私の経験からして、この教材を扱う時期は２年生の調度この頃。本校もそうですが、国内体験学習を数週間後に控えた時期で、自主研修やディズニーランドへそれぞれの思いを馳せ、学習に身の入りにくい時期でもあります。授業で「こころ」扱う時、この場面で使う鉄板のネタが私にありますので、暫くお付き合い下さい。

「諸君！世間はこの時期から少しずつクリスマスに向け、街のあらゆる色が変わり始める。その最たる象徴がアミュプラザのクリスマスイルミネーションだ。そしてにわかカップルと呼ばれる人々が、まるでゾンビのようにその光に吸い寄せられる。加えて修学旅行という高校生活最大の行事まで後に控えているのだから、ここでカップルにならないと出遅れてしまう気になるのも無理はない。しかしながらその幸運？が自分に舞い降りてくれるとは限らない。シングルベルになることだって充分にある。そんな時はカップルに向かってそっと心の中で呟くのだ『精神的に向上心のないものは、馬鹿だ』と、これは決して負け惜しみなんかじゃないことは……」

閑話休題。私の好きな「内田樹」の文章を紹介します。各階のフロアーには、読書紹介のツリーも飾られていますよね。こちらにもきっと素晴らしい出会いが待っているはずです。　以下引用



目からウロコの愛の心得

世間はクリスマスである。

娘がはやばやと東京へ去り、合気道の納会も、すす払いも終了し、美しく静まりかえった家で、お仕事三昧、読書三昧、音楽三昧、美食三昧の日々である。

昔はクリスマスには女の子とデートをしていた。

私はそういうときにはちゃんとしたレストランで食事をして、それなりのプレゼントを差し上げて、タクシーでおうちまで送るという、女の子からすれば「たいへん好都合な男」であった。

そのせいか、私は若いころ、けっこうもてた。

それも当然である。ご飯を奢ってくれて、プレゼントも貢いでくれて、呼べば飛んできて、ほっておいても怒らない、別れてもあとくされがないんだから。女の子にしてみれば理想的に「好都合な男」なんだもの。これでもてないはずがない。

しかし、このように達観するまでにはいろいろと苦難もあったのである。高校生のころまでは「とにかくしつこくつきまとう」のが愛情表現だと思っていた。しかし、どういうわけか、しつこくつきまとって好きだ好きだ好きだとわめきちらすと、すべての女の子は走って逃げてしまうのである。

これはまずい。こういうときに発想の切り替えが早いのが私の取り柄である。私は問いを反転したのである。どのようなガールフレンドを私は理想としているのか？

都合のいいときにはいつでも遊びに来てくれるが、私の行状には好意的無関心を維持し、こまめにプレゼントをくれて、私が「別れよう」と言ったら黙って身を引いてくれて、別れたあとにもにこにこと友達づきあいしてくれる女の子……それこそ、私が求める理想のガールフレンドであることは贅言を要さない。

なんだ、それを逆にすればいいんじゃないか。

私は目からウロコが落ちた。こちらがしてほしいことをそっくり相手にしてあげればよいのである。

私が二十歳くらいのときにエリック・シーガルという人の『ラブ・ストーリー』という恋愛小説とその映画化（『ある愛の詩』）が大ヒットしたことがあった。そのときの宣伝コピーがLove is not to say sorry. というものであった。

これを配給会社は「愛とは後悔しないこと」と訳したが、これはちょっと訳語として不適切である。

「愛とは後悔しないこと」では、「とにかく後先考えずに情熱に身を任せて突っ走れ」というふうに誰でも理解するだろう。

しかし、物語の中での意味はそうではない。

この台詞は、身分違いの娘と結婚した息子を勘当にした父親が、夭逝したその娘の葬儀のときに数年ぶりに会った息子にI'm sorry（「すまないことをした」）と悔いの言葉を告げるのに対して、息子が冷たく返す言葉なのである。「もし、あなたが私を愛していたのであれば、あとになってから『すまない』などと言うような行為をするはずがない。つまり、あなたは息子である私を昔も今も愛してなどいないのである」という、これは「絶縁の言葉」なのである。「愛」というのは、あとで「すまない」と言わねばならないような仕儀に立ち入らないように、一瞬たりとも気を緩めないほどに張り詰めた対人関係のことである、ということをわたしはこのとき学んで、「おおお」と目から二枚目のウロコを落としたのである。

「自分にとっては快楽であるが、相手にとっては迷惑なこと」を選択的に相手に向かってするばかりか、その迷惑に相手が耐えることを「愛の証」だと信じている人がいる。



それは話が逆である。

「愛する」というのは「相手の努力で私が快適になる」ような人間関係ではなく、「私の努力で相手が快適になる」ような人間関係を築くことなのである。

それ以外のどのような人間関係も「愛」という言葉には値しない。私はそう思う。　内田　樹

まだまだこれからです

3年

卒業考査が終わると、否応なしに受験で頭がいっぱいになり、いよいよ追い詰められたという悲愴感に浸り始める人がいる。体験したことがない大学受験で不安だろうが、それは同学年なら皆に言えることである。思うような結果が出ていないから自信がないと推測できるのだが、よくよく考えてみてほしい。大学受験準備期間はまだ終わっていない。冬休みすら迎えていないではないか!4 月から受験勉強に取り組んできたとして、もう 9 ヶ月。受験勉強が習慣化し、まとまった時間ができる冬休みには 1 日 10 時間以上の勉強さえできてしまう体力が養成されているはずである。本番間近のこの時期特有のほどよい緊張感が君たちを包み込み、勉強効率アップと勉強時間アップの原動力になることも期待できるのである。受験はまだ終わっていない。いや、まだこれからだ!なのに、追い詰められたと考えて嘆いているなど、時間がもったいない。

君たちは 11 月まで、週5日の学校と放課後以降の自主学習に加え、土日の2日で模試を中心とした復習を行うなど、できない部分の解消に努めてきた。ペース配分に気を遣わなければマラソンのような長い受験勉強で息切れしてしまうため、同じペースで勉強するよう、我々も勧めてきた。しかし、共通テストまで2カ月ほどの今、体力があるならペースアップしてもかまわないと思う。集中力、気合いが高まっている今だから、その勢いをうまく活かしてほしいのだ。「クリスマスやお正月は受験生にはない」と言いたいところだが、息抜きに多少楽しんでも良いだろう。ただし、1日の勉強時間「ゼロ」や「徹夜」はペースが乱れる原因になるので控えてほしい。

どんなにスロースターターでも、この入試直前の時期にもなると、志望校合格にあと何点必要なのかもわかるだろうから、残りの日数で何をすべきかの絞り込みも進んで時間の浪費もなくなるものである。夏休みの頃よりも効率化でスピードが 2 倍になり、6 時間だった勉強時間が 12 時間になれば、夏の 4 倍程度のことはできるはずである。だから、2カ月の4倍で実質8カ月分の時間があるのと同じなのである(夏基準で)。少しは不安が消えただろうか?

少なく見えて、実は濃密な時間となる今後の2カ月。具体的にどう使うべきだろうか。

まず、冬休みに入る前に志望校の過去問題に挑戦すること(すでに済んでいる人もいるが)。冬休みに何をすべきなのかの再確認になるからだ。例えば総得点300点に対し、合格最低点が 210 点という志望校の過去問を解いたら 180 点だったとする。模試の判定ではDかEだろうが、あと 30 点を各科目で上積みすればよい。3科目なら平均10点ずつである。どの科目で何点上積みできるか、自分で判断できるだろう。偏差値で5足りず、順位も下位だとしても、可能性がないわけではない。特に、暗記が多い科目については短時間で伸びる余地が十分にあるのだ。そしてもちろん、前提条件となる共通テストのマーク対策を、手持ちの問題集で行う。

残りわずかだといって、悲観したり不安になったりするよりも、準備可能な今のこの時間を有効に使って黙々と努力を続けること。これまでの努力はついに志望校合格という形で結実する。

「諦めたらそこで試合終了ですよ」(by「SLAM DUNK」安西先生)

かなり有名な台詞で恥ずかしいですが、あえて載せました!応援していますよ!

※この文章は評論家や精神科医など様々な肩書きを持つ、和田秀樹先生の文章をベースに加筆・修正して書きました。